岷江入楚

浮舟 ノ五十

特別
へ 12
4604
50

712 45
4604
50

宮内庁書陵部

小汀文庫

・浴舟

十四歳花鳥三位三歳七春の事也とて
秋琴 年三位六歳の三月より三月の末までのことなり
兵部卿宮不高子姫君給事
大将殿与中君不遇者桐壺
私東しはなるむ月のついたちにてとあるは兵部六歳の
三月やはいの端の初八日五月さきの
姫君の初八日のしるしとて
さしそたるもの
かうこうしのこうしの
十五歳大将弘徽殿三位六歳の三月のすえ
三月宇治水辺殿付小松殿篠御所桂おお二条殿事
白文見付其文同桐壺事
兵部卿文姫君大将宇治通ふ大内記道定同桐壺事
大内記語申関及合歌
兵部卿文ゑ具大内記東国者取隠出宇治殿
月法性寺留車乗馬桐壺事

・文之事終

48 3719

文作たるべし也和尚入れ給
たと思ひたるべし也出家
殊更歌思人遠事
太近更事見文殊菩薩事
其翌日文遣留給事
毎度為石山預遣車来侍物忘返遣す
未明無アリて文切二条院給
大納言殿文給事
二月大納言宮御給事
十日内御作文事
詩云れ意と聖事引とれば二三まるまるきれ
ゆもこれ[illegible]
二之の文ども[illegible]
無アリて文又出宮給事
伴め更衣殿橘小路事時節用悩寺所領之家為遣
又し白深夜遣世おや文内京給事

宮御文大納言文同給事
大納可給宮給姫君事
白無アリて文今月廿日比
世間白弁尼来知文遣す給姫君事
姫君欲投身事
文御使大将出使給宮給大納言
内侍大納申世間細事
無アリて文お墨盤不見宮給遣事大納姫見事
大納宮隨身の詩凝無アリて文尺給事
大納宮文お宮給姫君事
姫君不見大納文遣事
給ふ大遣物給見文しめ要抜す姫君問給
大納内舎人承作鑒国宮給事
姫君死出嬢文お事
無アリて文出文遣事内侍文出宮給
文出使伴内侍文遣事腾文を射面給不取す

・文室内京行
文御文有家仕初年
冊文貴見恵可慎仕しを遣文年京使と成れり

深舟　元　紋様乃巻名　秘

何くらの花のこしをれうさ和そ[illegible]
元　薫大将の丈二条の[illegible]
秘　薫寸六の年四月より[illegible]の来まそ
笑　巻名ゆ　あつまやの巻ハ丈二条のみ[illegible]
以巻の初つ[illegible]薫寸六年四月の年より[illegible]の来まそ

文りれかのつなをしゆへとおり　[illegible]
元　自文の二条院の對[illegible]深舟元と尺出仕つるよ[illegible]
秘　初の[illegible]
[illegible]
秘　深舟の[illegible]自と賞
いとあさなきなりけり
世をもいとうきものかへ　秘　班[illegible]自の始文と元
[illegible]の仕[illegible]

[illegible]

白文

[illegible]

中元のいと 私云はるゝもの中元をうるとき[illegible]

[illegible]

中元の白

やんごとなきさまなる

菓の[illegible]菓を[illegible]

人のくるとき[illegible]人を

菓[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中元のいと　秋ごとに[illegible]

[illegible]

中元のうた

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
中えもれん侯やうにまとゝえいれぬ
中えのゐんあはれとよまれ給へる
我身のあをいはもとゝさと屋をいつる雪きさるとゝ
我をとこうりまうすてぬれてう等
物えんしうこうよまれ給へる
中えの物えんしうもまゝうまんうねとゝ
のおもしき歌ゝ
かれ人へいかゝもしつそ
品ゝしり蓋の宮道の雅如ゝうきんの類ゝうりてお
蓋やゝかゝしいうえん
やもゝうゝひりまつ
くんをとうかさめ給へう
神のつきもしうしうもうす
河伊勢物語
こうしゝこゝてもみよ
まうるきんをうり
[illegible]

[illegible]
神のいさもしうたをまゝ播磨の国を神制をまま
しきゝ神代より
ゝやもうゝあたのもうきゝと
ふをつけくみへし
これとゆまりうゝもうて
をを先うして
をこ一日歌もうあつき
宇治大臣
ふりしゝ人のうもまきすわして秋人を訓教してそう
かのんをものとあをき宇治大臣海毎を御ゝまわをんとゝ
うゝ先ゝも人へのりをきうの
これ皆蓋の性ゝ奇物ゝ
人の月ゝすして
又蓋のゆうれさゝ
[illegible]
[illegible]

中宮とのうち儀に御母屋をかたのごとくしつらひなどして
大宮のすとのあるにうつりたまふ三月ばかりにて中宮ぞこうしれしとき
思いのいとはしたなきこころもちなれど年ごろ
ふるさとつきなかりまじらひしてなれたりて
御母屋をわかちてかくれ
もとこいとまもなきやうにもあらねどこれと文の出でこぬ
宣旨もこうくだりぬべきに家中もひろきにあれどと中
宮のかたがたもいとしたしくまいりかよひ
しかも　元元も二条院の
うへにまいりたまひしかばものやすきさまにて
昔のすとのうちにあるとき
世中とやうにこうちうちに
中宮世とうちうちにて
和ひしうちうちにまいりたまへ
宣のさまとうちうちに
しもうちうちにあれど

まいりたまひしかばいとうれしくてこの
ことをいとうれしくてこの
宣旨のくだりたまふ
中宮の宣旨にあるとき
元又中宮の御母
御方
三月ばかりにて
宣のもつてくるとき
御方
ものやうにてゆきかへりたまふ
もつてやうにてゆきかへりたまふ
御方
いとうれしくてこの
宣の宮にてもとりたまふ
宣の宮にてもとりたまふ
宣の宮にてもとりたまふ

中秋の月中宵の名

月の名

蓋乃白いうしろめたを中宵をこそ

私蓋のいとくらを中宵をこそ

月の白の光りうつりてもきこえ

うちなびくやうつりて

住しらぬ秋のうつりぬるをおの路を

月はけふ明や

月は白のうつりてもあれ

月は白のうつりてもあれ

月の白のうつりてもあれ

六月の月

中宵と心やすく白のあるそこ

白のうつりてもあれ

白の六月の月

月の白の光りうつりて

月の白の光りうつりて

月の白の光りうつりて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

乃桂樞未出五尺許和杜小詰衛敏し精魅をなす杜
或説云仁壽元年四月始し
私和杜和樞なる
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
源氏新造の寝殿をもむとて
[illegible]
自の心
私自の心
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

なの字法師人〻
[illegible]
とおもふ一つけてのまゝ
あるまゝ
とおもへと
内記の心

おもふまゝ
内記の詞

われの時おもふまゝ
[illegible]
[illegible]
人のもとへ
[illegible]
私人のもとへ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

白玉の[illegible]

京の内[illegible]

[illegible]

[illegible]

心やましきと[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白の心[illegible]

[illegible]

かの[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

白玉のこゝろ[illegible]

やをりの[illegible]

白の緑[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

たつの山のうら海とぞいふなる流のすをとて
かりくらしつきいとわてやた　実勝寺の人々別れる心
ゆきさいとかりきをあらうつきて中宮と海水とのまり
あいのうとよいとうとうえて
中宮　実　海水中宮ゆくうと
たををのかりとて
花をめかとてかりめをつくや
京の山上のふうとうとうと

今てこのまちとゝのゝてまちて御ゝもん
元　まい姫ゝ御ゝのゝとゝいゝかなるゝ
実　まことい屋ゝ
紙　まいゝゝゝとの屋ゝ　はゝゝとゝ京ゝ　ゝうゝてゝさゝ
ゝとゝいゝて母ゝもゝいゝすゝ　ゝゝとゝゝてゝおゝとゝゝてゝく
（き物ゝとゝ）　家平　紙まゝいゝ右近の母ゝとゝ
私ゝとゝてゝゝまゝゝゝてゝゝゝゝもゝゝてゝゝゝゝとゝ
紙　けゝゝゝくゝゝゝ和ゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紙 白の家司

[illegible]

紙 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

夢 右とり侍るのごとくなる

あるなるべくもそなるもの

又下くれなゐのまていと割そる右とり羽

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紋 白文字

[illegible]

白のよすがら

[illegible]

男女[illegible]

[illegible]

白文字

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紋 [illegible]

[illegible]

[illegible]

紋 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

紋 白文字

[illegible]

紋 [illegible]

[illegible]

紋 [illegible]

[illegible]

紋 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

見物やうむなりつ人とうとう

見物の人へるてそばめてりれ人まれと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世のことなどいふこともあまたまぶまりとをるもとこうとも
そうこうられ給ひしとをとうんそ
戒名
戒名をたうとてくのえとてすこ苔のうろこぶん
をたうとそをとうこうこうこうこうこ
苔のうろ井をそくをとうこうこうこ
のあうとかうこうこうこうこうこ
分れをこうこうこうこうこ
人のうをこうこうこうこうこ世のうんなうあやまうとぶきて
永のうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
苔れうこうこうこうこうこうこうこ
こうこうこうこうこうこ
白いつうこうこうこうこうこと
神のゆうこうこうこうこうこ
何わうこうこうこうこ神のゆうこうこうこ
川南西第子地推しこうこうこ
塩たこうこうこうこうこうこうこうこうこ

音れのこうこうこうこうこ風うれいこうこ
うこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
戒数うこうこうこうこうこうこうこうこうこ
しうこうこ

北の苔もうこうこうこうこうこ
四月のあう修験のの時ふ
とうこうこうこうこうこうこうこうこ
何たこうこうこうこうこうこうこうこ
川南

たうこうこうこうこうこうこうこうこうこ
私宝あうこうこうこうこうこうこうこ
面こうこうこうこうこうこうこうこ
これ文佐二人うこうこうこうこ加賀の山九月うこうこ
出雲佐渡とこ一人
大内記と
私大内記九
苔も時分こうこうこうこ
中元へこうこうこうこ

ひらうし　ぶぶ物ぐ
宇治の女と白女と互に同りたし　時中元能もの
まいりたりしやうす
仏やもさうさう
二条院より白女に別り参り
あいさつ
宇　中元のおいそう對や
いとさきげて
中元のさま
そうしくおりとられしもの
宇治のまへ
女元もなていろ　なまいて
宇　女をあつれ　白女の中元を井て入りて
いらうろいとあり　もれ
宇　女の母
いうしうわれとみをいそまろこと

白女をうつ中元をわれとうるとんを
いとうろうん
宇　中元は　ぬてやうそ　仏のらうんと　意ぬすと
のりて
人のおいそうそ
秋　只と宇治まへ　すれ
宇　意の中元と　意ぬ
宇治をつかるあれ　白女の
を　しうわすとまや　宇
宇　中元のなや
かりてふくさとのりてきこて
中元と意ぬねとのあれすや
か　中元の母や　ちるれさしめていと
ひうきかををわりうこと
宇　かれ不肖ろまを

白とうるしとをうるさうあり
白文の紛るる中元と實は雖異なれども
人もあるべしなどいふもあれ
白乃中元の如切の數もあしとまれうの人とも
人はてをうるかをしぬるとの中元とうるや
蓋まことにうるかをしぬるとの中元とうるや
うるしの人ぬれのうるさを
浮丹のすとあるしるしるうるしるうる
もくせのとろうるてうるしるうる
白のいすに浮丹をとうるわれうる
ありてうんと
まやうるといとりうる
中元のんに蓋このすの人の虚元をへしと
私蓋のすとまとしくうるに添ひとの中元は
浮丹のすとをれに實はすとのすとおるきてうる
やをるくんのうるを伝うるとをうるしまる

把うるきはうるうれこれうるすの
求この嫁娶れ蓋いるくてすの蓋のうるれるしる
私白文るも中元れうるうるやうれあいるれ
い蓋るとへもきやまんうるうるしをうるる
とうるりくれるを伝
するるうるへをうるへて
白と中元とあいるりは
私うるもるき蓋るとのうるうるまるるる
これこもうるうるうるるるるうるいきるの
うるるるるるとをうるうるてそうるうるるる
蓋うるうれるれるのるるるとを中元のうるへる
かれの人へうるけうるる
白八浮丹をうるけるるるるるるのれるを中
元八うるるれるるあるしるれるる
蓋のすとまとしくうるへのうるうるとを一瓜と中元と
白八浮丹のすれるうるうるるるるるるるるる

わらやをさしぬたい
実言のすや　白玉の数かみえふてと　白玉の
いとしかこしかんその言葉をきていふつ　きと
白玉よ　蓋のすれ言葉をきてくんまとたふきて
ハしつ　とや
わうさまうれぬ
白玉のうぶもうへうちなこ
時のかけうきこと
大家らの白髪れ　紅　私明石女の紅とる白
久しうもなりわうこと
二うのつもも中文のちんハ人　しと　辛
ヲつうたちわまうれ
蓋やうまこ白れつ
うやまし　けうれし
蓋れ紅　中高のふれ
あはもいとかけうす
秘四石中文

みううれさいうれ　宇心の影
白れたなう
むしうとうけとれうす　うう山ちん
白れ宇宙の中とれ　蓋のまも初をけこも
れはのまうう中とれうふ
恵いれさしをりぬ　なすれついくまふ
第五地
まうへとりてうれ　うれを弱さうれく
蓋のたんあうとれ　白のつるの結ると　うれはは
ふとうしうす　をとうれて　ふくのす　きを宇
まあやもうれ　ふまうくえの結ると
いとうをまんう　れどんうるこさうれ
いとうをまけ蓋の　紅とう　私ふびんうるきふとう
蓋の紅と　ふ
うつしをうへ白
白のたんと　私蓋のきぬとかそ

いとうつくしうもてなし給へ
源氏の薫さうぞくしたてまつりて
ことにもてなしきこえ給へるを
源氏のすき白の小
袿こうばいのもとりて
ゆかしきの色
ゆかしきまでいとうつくしうもてなし給へる
白ぬのの袿
ひとりとまりたまへるずきんもうちかづき
何ぞ従者
左馬の頭の君の御方にて
いとも所のかぎりに
私所方にはかの君や
所方とめしたまへ
花宴の夜おぼつかなきさまにもてなしたまへる
右をうかがひうちとけたまへる

右をうかがひ簡を右をうしろの人の笑ひ流れ給ひ
ひとりとりて我も拾ひとり給ふ
私右をうちとりてきこえ給へ
もとのうりうらん
用もうちぬ
所もうちぬ
白ぬのの袿はかりこそ
ひとりとりきこえ
右の方をうしろとふかぬ
薫はゆかしがりたまへ
寺にかけてうちとけ
薫のうちの四位
ひとりとりきこえ給へ
源氏のとりてうちとりて
ゆかしがりたまへ

[illegible]

海苔の名所

あさりうらうらしく人の笑ひ海

白妙の海苔の名所とも言ふべきか

[illegible]

白妙の海苔の名所とは白妙の海苔

[illegible]

[illegible]

私白妙の海苔の名所とは海苔

[illegible]

海苔の名所とは海苔

[illegible]

[illegible]

この人のいふを聞くとなん思ひ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

菊の[illegible]海棠の心[illegible]白[illegible]開[illegible]て[illegible]

我もしらのとものやうにもしらぬ[illegible]

[illegible]

[illegible]

月はまこと[illegible]物の心[illegible]

菊は海棠のかゆ[illegible]と[illegible]て[illegible]て物のんと[illegible]何[illegible]

心ゆく[illegible]

[illegible]

菊の紙

[illegible]

海棠の物[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

すりうるよおりいる

（秘）茅の花

（家）草のぬなすすミれてうるもとゝ

これ文のひとれ白不

（家）白文の集中しの直序や

大わ人よ物の法ゝとて

（秘）白文のひしの白不ひしらるれしやが

（家）草の僮僕よ物とのの

やミいわやうとおわゆうるいわうゆ

（河）玄の衣のやミわやう　物れおうみえよやうゆ

（家）引家白草のうゆ白ひ法ましつ　ミ草の紙れれ

ともわやうとうつ

永うしきこれりや

（河）さ遠よ永うしきこれりや

（家）引家白何とのうもの

（秘）引白法ホのうをうつる

うもうあれと

（秘）白のうしうう草ゝ草ゝうあれうる

文い和うやうれひ白さうく

（家）白や草乃はすきとずて白のうて

とうふいわもいぬうう

白のひよ草の法ホとわうるゆうあとあうれゝ

かしく神をうれのミ言やと

（家）白れ法ホとうれいうやうと言うるよ

と心

（河）本人　（秘）古人　百業

法ホの草とうわうれうるゝ白のひよ

ねうミわれゝ人草とうして云

何とうて言のいとうるよ元れうれん

（家）光氏とおうて白明治とうるよ元うれ

（家）翌明ううねとゝうる

[illegible]

白文

[illegible]

[illegible]年[illegible]不蓋白文蓋草奏ま誕生おわしたるを

こゝ家の[illegible]元といひ[illegible]

[illegible]

[illegible]時代のお遊[illegible]

[illegible]

白[illegible]ちは蓋に誕生こゝ家ま蓋の[illegible]

見[illegible]の[illegible]蓋の[illegible]世と[illegible]

[illegible]

[illegible]

あて[illegible]

蓋のすとり

みとの[illegible]

いれ蓋のすとり[illegible]

[illegible]

政[illegible]のうこゝ[illegible]

[illegible]やけ[illegible]

さて[illegible]文[illegible]

[illegible]

[illegible]

白文[illegible]

文の[illegible]

[illegible]

[illegible]

蓋の[illegible]

[illegible]

私蓋のおかしなすこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]句の[illegible]

京まいりもまつうらうれしう雪
花春の雪をいかにも仕まつりとこそまつらん
友まつうらのうらとりて（家隆）
まれのうたをとりけり
雪ゆゑまさきのかづらのあらはれ
いつもいつもいとしくこと
内記も或方が柿も俵或宿とそしくしき宿
私は内記清貫はつうらのむこは或柿を
やはり或方が柿をとうとくとわしくつう
大内記に詔書宣命任記をとくつぎ或柿
献菓者試をとつきうら獄いつれもとくしき獄
つきくしくをきあけを
きのすれなを（内記もをとして春をうら）
ぬをせんとありつれと
自らりもて行られしうるへ
をきまうあれとうもつう

実家の陪
は或柿は
御くろうしとあり

雪をしあさてかうしうと海苔をもありれとうし
こしれのつきまさもとられぬへ
海苔のいふうそはりんとは迎えとはいをと
ちはさて自のをうしうるうるへ
むうをもつまくれほうてうるうん
（海苔）
ふさはもあつうるうぬ
（奥）あつうるうぬ
私あつうるうぬ
かのあせしあつうるいぬつけきと
うるうるのあをもうるうるへけれと
（海苔）
東のかとうをうるへけれ
は暁をうるへ（みて津宿）
おりんも人のいうるうるへ
とをうあつうるうるへものをとをうせてけをとう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うぬのさえる　法華経

市聖木の名をとり見れてうらん奉ふる夕ぐれ

一しんのあるべき

世もすてしうらんたのやまもあはれとく

秘　世のすまひのるいうるしと

私ものうきやうるあるをていうまては

うらんのうぬのうぬ　法華経

秘　れ法華経の花さいうり

とこの法華をまゐらせねば

私ものうきうぬなる意　月魚のうえの見れ新や

うるうんとうるうるうる

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いとうしほうるまうとれぬ　さてかたく
家　秋　時雨ふる白の作　　元時雨ふることのはの
時雨をいそぎいとゝ　てつくと云れかり　忘
かりてたゝもてのはの
私にて見しうとゝいとうくしくあつて　なるとを完りは
みしうとゝ　平　時雨ふる宿守の主ト云て　てつくとかり　と云て
云れたりとも　ものしらぬ　てつくとかりして
ものもむしうとゝ　時雨
家　深草のすゝきの　文
山ゝうとゝとけうるやうはかり　わきは　今秋
秋　あけもまれもわり　月
私月雲のれを　山　盤　るともわり
あれはかりくゝくしんは
白の作はたのは　ものといはるは
家　白雲行のあはをおて　元ものとうて

雲の雪行れ水ゝ　雪　元　しうる　仁　年　れ　教　ゝ　ゝ　深草
とゝ元の切なりとゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
こゝ元里ゝるゝあれと　元　元ゝとゝ元
河　山城のこゝ元里ゝるゝあれと元ゝゝゝゝゆく
家　匠深草　別　家
あゝうゝれ行ゝこゝ雪ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
秋　深草の　家
行ゝゝゝゝゝゝ雪ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
私行ゝゝ雪ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
て　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
元　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
秋　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
私白のゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

けもてもうきてけるふ
浦のんく
さしてこに今こいわる
白たまの
箱のそこ
白たまの箱のそこ京の文をも作らるべし
こきてぬるこそこいのそこ物
濃かのこそ
紙のこそねんこて
紅紫紙へ
わりこいかこう
こうこうせこそこてこうこうこう白
こうこうきこうこをあざやこれこその衣とこうぬく
こうこうこうこいこのこうこうこうこ
こうこうこいこのこ衣の裾のこ
いやこうこい衣のこ
紗衣や

あざやこい鮮たや衣衣のこくこうこう卵
こうこうこいこうこを
白浪の衣とこうこう卵こ浦こきこれこく白こ
こうこうこいこうこ
こうこうこいこをこうこうこ
白の浦をこうこうこ
白直このこ浦こ
こうこうここここここ
こうこここここここ
こうこここここここ
こうこここここここ

いとしきものを人へ
白のうえてのあれ　法華の法師を蓋に我
りとい法切なりしと
うみつきてぬる
法華の屋
やそこれもりもれく
白い書に口もりもくさ高へ白いもそろ
いとうやまし
そもり白文の物かりれ屋
つきこれ法うまいきこうる白りそ
法華のの人しをきゆく
りしき光のと
まをりしいのす法華のとこうまい宮法
むをめれおうむ
乳母めを又言常陸宮のすかれ書年ん
はれとい法すりしりそりしろ
はいれいもの白文の寄通もんやそりし
いれもあるい寄白い如るるしのをしへ
りきにをまい栄花のすいもさしやかまりり
ものやもくもえみて　栄法華も又をもやもそ尼法屋
白文のをえ尼ぬとを
りくやしさをもか
法の文いまあつ
れもりれ法屋と
蓋のしおりんやをまりや毎言のん
りくりりしてんと
まいてるる京へ法華とを法りんとのす
りりもこれこうまつきる
法華のん
あおりりすりへの
白のりいもりりる白りきやるしりるへ
いりしうおりしてて　秘　白のりいてりん秘事と

[illegible]

秒 いもはわしそてのこゑ　家引方同

栄 いつきたとりつんこゑたとりやつるぬんこ

白 うちやうちうきさ[illegible]ぬまたうえ[illegible]のさいさ

秒 白のうちをこうやつてうへ

家 [illegible]

[illegible]

家 [illegible]

[illegible]

秒 白[illegible]

[illegible]

秒 [illegible]

世中をうにけ[illegible]めるれいや

[illegible]

[illegible]

白[illegible]

[illegible]

秒 白[illegible]

家 [illegible]

秒 [illegible]

秒 [illegible]

秒 [illegible]

栄 白の[illegible]

秒 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とりわけなるまやいろを
草をそりわけそうもあらぬそのへそといふん
草 水面さらさらとられ里人いそ
秘 宗祇のそらとそう
家 うちわい七夕をとりさせそう
白きこゑさしよしそれ
家 草の文れそくしき神
もしるをしんうぬ分をまや
秘 白へのふそうをいうくや
ふいえきこゑまし とそうらしく
わるをさうそうの事るまうぬんあるん
宗 里れ花をそうあるこれいしのうれそうそいそ信うき
并 里れ花といふ宗祇と云句之文あの句ようさとあるいて
といいて感わう
秘 里の花と宗祇とそう秘撰うあうり出うりいくやしえ
つう家妙之里の花とうてうきみえうるまのてうき

とうう感わうや 并等新撰遺名こうて紫式アとあう家
文のうきあてうし 為と
秘 男女 とうきうもしし絵や 家
うう つくをまし さう
信茶のの白とのの要の来こうけうしてうとうすと
うりまこうりて
草よむ人られて白まと文をうんもいあり うう(しと)
過信 白 ものうとうし時をあれ草言よううて世とうるをなきや
草 白やうとうあ 天雲白やも
秘 西やう天雲 白縁 雲用こうて言いり意うさ物こうる
我分をもうし いれしと
家 わまやう天雲こいけ白言ようう言のうくり物と
信しうきと
私うきてまとうるをもとうてきい白言れうきて世とうう
こくまるをもみさいやとして
中へ入てうへきんなる へくとりまと文家と

[illegible]

[illegible]

[illegible]

内ゐなとあり　てゐまさきて　きさもろ人やゆるん
女こまの　ゆかしさうなる　内裏なとへ人のあさ
ゆるゆるていと
さいらの千もた
又蓋の白髪に内裏なとへきさうなる人へきんな
まぬと法華のすとりや
つくりとおまるーたんと
こまーーもへき
ふそ法隆寺や
これ内孔ーーーー人のあや
大内孔ーーーと
大内孔五宮書れ又右義右衛仲信蓋の歌人へ
こてつざて文まくれまきて　ーり
ゆてつくへてや　白文へばすくきまと
此通形ものかーま

此通方ま　ーーーものわーーへ
いーーーーーさて
白文へ
蓋の法華をむくへーーねさ行白のあてくーんと
ーーれーーーの
白の山乳母へ
ーをつくーーわーと
下京ーーーー
だーーーーー

[illegible]

[illegible]

[illegible]

けるものなれつるを
秒 白らに二日ばかりのまうしふうけまさるれ
るけるうへ
私はものの紛れかれ白のうの白とていのてうに
るとくれいるも
信濃の地をゆへを母のうねに母の紛
なやまけるせるもとといて
まう紛れるへきれ母まうはきるもう白に
いうなるうれしとうつと
秒 りあ懐妊をとうそこ 芳
山もさまりまれと
秒 懐妊まへうす月のさうて石もうう紛
されこ 芳
信濃のなやこを懐妊まと母の芳うも又
月すのるうまりて石山詣もまりこうるな
れいるこにやとていしやそれ

私ていくいわれいも月のさうすう芳まるこ白芳
のをせしゆへうつうすまるいこ
かるはいうをれいうまりこ
芳 うさ信のす
私月のさうるのすなれうるう
芳 又白乃ゆうなをもうもうるうへ
るのの尺をうるいつるうるう
秒 柄のうまれはのすとうる芳へ
わま京いいて
芳 弁に石うり
芳 こいう京れのわうる
芳 大京れす
うへきすもかりいられうこ
行すもうるうるりうまりこ白へまるるを行と
まやうう人のいたうるあうてらあうまりまやとう
大京のす

おもしろきまさ海しうハ
弁ハいとゝ九郎兵衛のおりしまさ海うはと
文のうへるものやうよ
中京のすゝ
うるむをめいとんへうは
毋のかゝ海ものすとゝ
うるやうなりもく世のおりしてハ
菓のかうすハ中京おとしと毋のゝ
物をのこるしもきさをこゝ井ゆるく
海苔かゝ毋ハ物をのこるしを意てくてとき海へ
毋のゝハをこゝゆるへうるゝ
かくうるゝ紙ぬへうるまれ
海苔の京へ出るすやう
ちるきゝうるうるそしとゝきるハ
京ゝ海苔の出ハりてこゝきるこゝるすあり
第ハ字海へ

むしりハことをハのとふ
八文ハ京なとのるすや
ゆしうゝ弁とのゝ
弁り紛
弁り月ハいもくしゝゝと早下ものゝ
こまやうふみしそまうゝ
大京るものすをいうつ弁りをまくしゝ
弁ゝいさのゝうくしゝくまれしとゝ弁り迫
うゝをてゝうをハいゝ紙りうも
弁の京へうゝを紙りて弁り紛すゝんすをゝり
るハれもまるゝゝりるくハゝ
市紙の写ハゝりそうるをゝり
たしゝすおもくしゝきくゝりまつうりる厨の
菓のすゝくゝて中ゝうゝりせしとき
菓ハなとうるすゝ言ゝしゝをゝ
おりりるをるしと巻ゝてとき紙すし

弁　花の様をいかなるわけなるとうたがはしきうきうき事もやはり作りけるなと

弁　ふるしやうやうきこえるすると云

のちはこゝろねとていまはは

母の御　私母の御なれば早下してそう

御　さてさて御無沙汰

　　さてはなほ御へ参りやう出さこゆる

　　角ばしらへとうまりくるふるの母なれば

弁　左の中へうしろとうまりくるふるの母なれば

　　文のうへなくしきくおられる者しうをしと

中　の御ん此さしのれて母を二条院をきはい

　　よとをうそう

つまりしき弁をとの

御　法華の二条院よりれすきて百（白文のおりしし

　　よりとも叶ふるすいらる

中　そうは不ましなりと

そいはなほをいつくしうとうとうと母のうちうけきしんを

いふ

あまをこうしうしく

弁　や

これ文のいとさいふしきまて参おりしますうれえ

白文のすく　弁　御

仏をせわんもそよ人

あるくしうしあるうき女房をいふ（ふ）

大うさいとそとさいわう

白文のおりうあ

さうすしすすて

中　をうしうあ　弁

人のあしとあるん

中　をう　白文をいきて中をのわくあんす

とをう

たいまうむをめれ

大博えい中　えの女房あり

きりやまして　と云いきしかり　なつり
云ふ海苔　中云ふ　やづ　ふ　房　ふ　のすとさへ
きらきらくよいる海苔　海苔の白文　ましへられる　高野
うんと中云のきこの　ものいたとこ　海苔　やうれ
半ものいよ分とそ　うんとうるうち　なつるうし
わなむくつけやみとの　ぬむをあとちこそまち
紗　母のなや　女二文をきし　こそまちうるくるむをあ
とこしいるすいあい　けるさすとされとこれを
うけくるれらすうれ　れんやもしとこ
うれとうくくれわし　くもらくもあしん
并　菓も女二文をとちあ　すつれも他人のすれいて
きんとこ
ようぬすをひきいて
紗　白文の言へちこる　年いいさしもろくりと
きこそまつくさきし
白文れうこへらうすな　あ母れ年きの年ふ

いもあすいうこれいよ　ちけ白ふし　ものほ年ふい
きこそまや
いふ年ことこもを
母と年ちいいすす
いこんぎすつぶぬ
紗　海苔のなく　年
れちを年をこうこれくや
海苔のあれすもすて　こるてこる年
ふれちのをとものあそ　わしけ
やこる海苔のなする　てるあちも　詩のあ
きりこへし
ちらぬうれもあちこ
并　母の白く　年
ふすわまし　きこ年ふ　月とこ　ゆふれ　御
ゆへきこきこちんちんをとは　えこちあるいるち
并　年尼のこちあ年月をこ　をちとあれこるい

秘年月とは年月をいふ秘年月とは年月をいふ

秘年月とは年月をいふ秘年月とは年月をいふ

秘年月とは年月をいふ秘年月とは年月をいふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

又ありしでもこうとうこ
下ゝ野いきもりすれあるゆこ
ゝらられあやう
秘 母の句ゝ
ゝりもきいりこまり
芙 母の句心母のるこ
さうんこうなれと
秘 母の句
こもいと地さいう
芙 がねのおうむりのす
ゝるさ井をとえ
家 衣をとゝりすやすをゝかゝとはく
さいうこさわうれゝ
秘 京へいてをいとをとも母のるそんせ
るきゝと
たけぬのこうゝりすゝも

何 ゝられくるけふのうまれありとやなれ
こうゝりれやさゝんこうや 道口律
芙 催馬楽 見河 我はありとやまこうとゝ句あれい
いくまあしますもとやれいこう句
秘 催馬楽 石川の家いつくまあしますもまゝとこ
私勘 催馬楽 道口 越前国をいつくの飛
それの君をゝ 武蔵ゝさきんごゝいさとゝ
ゝんこんごゝゝ
さが父まゝくさう父まゝ句
或ゝゝられくるとゝこ 芙 ゝ陸奥やとアり
家 ゝのゝはゝ
ゝのいてゝまゝうこう
ほ母の母ゝいてゝ
をくこさゝれ
秘 れるゝまゝうこれ
家 受領の書ゝうまを母のをけきゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

六条院よりさいの文れいの
四位中文六条院へ出給ふ
[illegible]
宮仕の道すゝ随分れ[illegible]
やうしきことの作りて
随分れ文[illegible]
[illegible]
[illegible]

いさわけてきりて
蕊の立ともりてみちわしも花を白のいきのかを
られるれのうをやうるうねやうる
陰系られるすのうの音
おうしもうてさざねまおりすれと
ゆ音く幸
ひとねいあのまつ
うれ云いさうしうら出すうて
何曹司
薫也　何法曹司云て陰なん
曹司
おうしいてうとうしうきて
白のひうんうをゆ音をまんを生筆の白文を
うつうきておうわしいつまれまきあん
おうわうきてひいもうしうう
白衣の細とうして体をしまのおうをうをいて細を
ゆ
ううつなうう
ひもいうびうをのまく白のおうをうをうう
ゆうれいたいのれいく
ゆ音く
まうてはねへ
ゆ音を細
ひしやをのひへしく
形見く　四位の顔の白
おうしいまうとうれまうてうてまうまれく
ゆ音れうまうれまうて退出
白文とうれ
あうまうまうのいぬ
ゆ音のうへく
秋ゆ音のまをおうす　六条院の内うへ
ひれのいをうれて四位
薫く　三条をうて　うれをうれまうう　秋　行うう退出のまく

隨分きこえさせたるあやしきさまなれども
宮仕へのほどの人
ほのかなるとりてはたらもすべいじんなりす
墨のおぼえ出たるまゝすゝ松明のすゝ四位中宮
しるしの時ばかりはいまさら宮仕へのほどの隨分
もてきこえさせたるつまとしるしやう
紙
大なるとうすき同じとく
けさうれ宮仕へ
うれしきつまとすゝを隨分れり羽
むしきれのすゝやうにさらまつけうるを
れ松のきもいうう雲うれいさすやう日の光をたらちあるや
とたゞてきこえのやうの光
羽のおぼえ
えあやしとおもひて
うれいこゝろへも
隨分れもれいたぬるを戸羽
紙墨
家

下人の中つかいまさきこえ
下人月ごろ
ほのかなる白へ過すれ紙の光
おりしあるまさうふとう
中宮の御方うれ白のうんりしみす墨のうる合をうる
さまれみをつうんをもく
隨分れ
人まうをしとくしと感しまいあれと
まやうれ又墨の用うる
ものうれいとうそろしくすることうれき
墨の白えすをたすしく
升うしいうあうそう
ほのかなる四合うれそうのまきれも
のうもつまく律儀なんとうれこまうけ
うれを出さうまとおもひて墨の言葉
流のうる

さてもさてあのちまこと
をしらぬ白玉のすがた
あやしきまでそこへ
中宮を中しらしまし
かそはりきこえまつる
これは宇治のうれのすとそう
ぬいのかりそめすを
中宮へは蓋のかりをうさと我ものとおもふ
それはいまはしめて
中宮は蓋のそれかは
くとう
うんのうちれなあるし
内者不孝とうう
中宮はあうしれむつかれ
まうあるんはかりうへ

まうたのもうるしうへきこ
うをを
うしうへきこうしうをもおこうをさ
ハ宮へうきこうすはてまをいつくするうへきこう
うとうとへ我ハこうををそれといつみへ
うんれうしおこなうとうきうをうとハ白玉のそれ
とハくし蓋のかをうれうと我おうこうへ
これにくるやまくく
白玉の此ほうやまくく
しけさとや
おりしやうまいの人まいのへをを
宇治へやうのうしうれうをへうをを
うをうをけさこれうを
宇治へをこうす
おうこうをうをうれを
白玉のうをうれをしをこうを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秘 やうこいをうんるし
宗祇への使の海苔
秘 葛の羽 仲信は葛の家司
道具 大内記や 仲信うしこ
さうん物
隠岐うの西条
宗祇へいつもやこれをきんをのこ
葛の羽 きしゑのをの使のをのこ
うんをもつてくらうん
秘 ときわやきさうつきくのをの通定は内記
葉 ときさかの内記のすゑ
人をんてをきれ
思いてゆけとのをの
きうつをまこれをの
或かの物 ときさや 仲信うつてまた葛のをのをの

きしとうの会をれと葛へ帰りてえりさねと
京もげをまくうつい
葛の月きこは隠岐もくたりふをを紙
くいをれをあるを
秘 宗祇
物をうをうをくこ
白文のすゆへ仏しををうんをうんをうこ
葉 陵こをの松をうんをの帰りいきうの
花 京ををきてあをこををの松山陵をん
秘 紙ををうをうんをうこ
和歌の松山は平緑これを陵をへ

人まうさせまとて
文をかいてつかう
これを人まみをそらをとて
けはこゝろの内ハ仏をとへまうさせまと文
ハすをとうとうこんあり
むもあるさうぬ
浦舟の仏
おこゝろのやすまんとて
ばりしわくありいらいこと
れくるすうふいくもしこと
蕎の麦ありてしこと
けてもんをよゐぬ仏こと
蕎の紙いこれかとのあり
けはまうあいこうすしこと
浦舟の仏
をとてをしこそまうを
文をとをいまくしさすと右をうけ
いうことのあるやう
浦舟ハ紙
あやしとんをれをこうしあけて
右をう中こうてあけてこと
ようずれ右をうゐやるこうと先より茶の地
茶の地ハ文をとあけくこうからすれさうと
右近うんこうよりまてこうをとを物語す
評しうまう
あいこ紙こうをしまうもよこう
右をう紙
ハ物のをしき
蕎の白ハすをとうを物語こと
あるこうまてこと物もの物語す
浦舟の物
これんくのこうをこ

秘侍従右とこ

[illegible]
母の[illegible]
右近うあ[illegible]のひ[illegible]
右近常陸へつきてそ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

物のけうもの

ほうのうやまうきとまつりけく

反らいいれわらしゆすをに

ゆすを人とれしねど

私蓋ら故うのくとくれくら蓋と

くれおどくうどわりとといふ物をてう

花をうほうふりてう内会人く

おさうれうふれうすうるきしきあう

ことわりうう

女房ものうりうしんと

内会人のおうくわ物やうしんと

反まうし物ゆ

内会人ゆ

ぼうしうもうりてくくう

新事云

くておりうまりとう

反蓋く

くれるいうくう

笑見河

ほうのうけるおかうすく

そのあるいうれうくうん

これわ人のうちぬすれしと蓋の作やとう

えううかれやすれとう

内会人う年老しうう

月比おうくう 笑内会人コトキ物モ上日ヲ付テ罪遲スト云ト

さのごとくむしやれと

如然 非常事や

さやうのごとく

非常ものうるぬす

うりうくうへ

これも蓋の作れ証く

うくうれうしうもおそろ

おそうしう山の島とう世伝河のうん

太をうんう来とおうくうしう物ようくう角会人の

太をうん来と笑うしき物ようくうれて

のんく笑

りてもやて
右をう内会人まさとくて同答をよりぬ
さらやさてさせしまたりぬ
これ内会人をつる方を原道の落丹へ戸初
世せしそこも侍ぬよ
葉のよれをさをうけくを
れきかのうちをて
見ふ細をとふをて盗人をの用ふとれをを
ちうこと
分れうりをと
れ井人の世下ををとこをまうと
乗りをうえをを
乗りをのよ
言ふけをていまありうりぬき
落丹のんををそをるいつとるしう
をうりいをくと
自分

うけれをうりをきをを
何をまりんをれ思ふをれのをれをのをれ地をう
松蘿の歌をうすを
何帰をうへ
何アリ 笑 答内
をもくてをいとをくよ
落丹のをくをうんをを
りいけををうへの
をうををたりもありけを
大和物語云りしたのをむ世ありをうを男
二人あり一人をれ内のををむ男性むをと
かん いをりをいまりをうのをたのへ中をを
かん いをりをれ男をもを
ををを男りをあるんををあをを
とををりをんをれをををて
ををれ中やをれをるを
をれを物語をれ中をれをを
とりをくをりをれをへのををて

うけれをうりをきをを
何をまりんをれ思ふをれのをれをのをれ地をう
松蘿の歌をうすを
何帰をうへ
何アリ 笑 答内
をもくてをいとをくよ
落丹のをくをうんをを
りいけををうへの
をうををたりもありけを
大和物語云りしたのをむ世ありをうを男
二人あり一人をれ内のををむ男性むをと
かん いをりをいまりをうのをたのへ中をを
かん いをりをれ男をもを
ををを男りをあるんををあをを
とををりをんをれをををて
ををれ中やをれをるを
をれを物語をれ中をれをを
とりをくをりをれをへのををて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

元百葉巻第十六日者有娘子号櫻児年廿有二壯士
芸詭此娘而指生格競貪死相歆於是娘子歎歎曰
從古来千今未聞未見一女子身往通二門矣方今生
之意有難和平不如妾死相害永息尒乃弱入林中
懸樹經死其兩壯士不取哀傷働血泣連襟各陳心
緒作歌二首

春されば木の末隠れ行く鶯の
いとう花の陰をしたふらし

或曰昔有三男同聘一女娘子歎曰一女之身昇滅如露三雄之志難平如石遂乃彷徨池上投死池也沉没水底於時其壮士未勝哀頓之至各陳所心作歌三首娘子字曰櫛見

有三男君之

秘

花がつまを巨万集十六巻之内にかくれたる歌

大和物語

万葉集十六巻

校子の歌

わが

家

はねず

大和物語

花がつまを用ひきんとて

秘

はねず色はいかさまにかはるとも

とすてしかはるまじ

はねず

はねず色のかはるとなきまでに

うらんてたのうらみをかこちけれとも

はねず色はいかさまにかはるとも

してはいとうらんとも

はねず

はねず

はねず

おぞろつきすを
おそろへさ
おそくしきすを　浮世のあれてそらり
てあくしくおそろしきすを　ふるられ　とゞかを
ゐをんとろすを
あつまれ方れ生長をし人るれんもまるげちろと
やまをるくへさのすゞ
むつくきりぐるを
夏古　白のゝ人ちつし
一ちいもてをめそ
人の目ちりもしくしちゞ
ゆゝこれたるやき
燈臺
拍へちちのゝへきれゝ
菖のゝへちちれつんすゞ
あれちゝみすしをそうちう

後の白ゝ人のゝ
さちちそうきゝづい
白れゝの白ゝ吹しちつけちゝ城のゝあいをちゝ
ゐれ落花をつくしすゞ
ゐちつしくちちゝ
ほゝ初ゝ
ちやすしけちれのやちいすのゝ年ゝ分をちを
むれゝ
人のちゝもいをおしちん
白ゝのすゞ
ちつちちれをちちを
ちをしけ出ちもしき板のゝら
ゝかちゝをとをちちゝ
ゝをちちををすをちて入ちるを
ちしきすやちて
ちちもしちゝ

ちやうてきをくらうにんいとつをあたうる物を
ちやうさまれいの年号の一せとそうり 年文未都
教さまれはこの飛ぶ
心ありそうをうらうとゆくとそうの儲るの一せ
うりわもうもうりぬ
三月のはるや
みはるはいりくるへ
まくるる白文京へうとすくしまれつ
みれるの更れるのすむ
みはるはしは任国まむくる
京うの長うすもうんと
はるうる備まりむはその長れも海とれや
へうりうんと白文のしう
うるはいるとの
白うりの文れ
さてわうもしきねうてかりうんは

海苔のかく
白のはいくはうしてはいとうは海苔のかく
海苔の白
わうえうりうりうしま
右近の紙は紙はれを顔とうるすう
けはるはんのはうとるるう
うくうきねう 白文へまうんとはすはれと右近の
ちいされるはるは
右近うかはは白のはうへかりいくとそうそう
こうりうはれく
くうはうはくはくはく

たのもしけれ　いうもなほ
こうらいしさをうけくと
うらやましきもことわりなり
自へ五のやうなさま
あくれもいくさなくて
自文の法華経水引をとるとあるべし
なれんのわくさ自
自れんの業のくいらくらと
とうとかりそめうし
業の五へ四人の勇ぬ
人のいたつ
うらんをもとめ
むりきよ
何らも思ゆるもらもそ
川方歩歩思いしトすくむ
ありさまれるをみるまいるそ

自のうさ
自の方法へわらうてれ自ありて入れ
いさましげや
さとくしきさ　風石をもんで　桜花のときんで
京らうとれうと
いきされとうと
こことり自伊勢地方より
けりと
うんのずぎの石を
古道の法者の石寺り
けりこれいふうなり
石用ここれいふ
とれの中くいうわれと
文をとくしてそうん
自れ石
ときうと入く　寄竹寺　竹寺

紗時雨

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かたきうちにて
（家）
（紗）
（家）
（紗）
（家）
（紗）

かわらの流れ杜鵑きゝ
あるときゝんれんの
して晨鐘のうちわ
あるかとあるかあり
こゝにもえさこゝさ
句の初　私人のいる
あらねらくこゝて
これ柳を伯氏くら
さあり月のうん日と
いつくとあり
あるうんとり
かしをうさこゝ
自文れ四つ文海の
分をすてゝ
れを人のをいしく
ゝをうこゝ

人に晨鐘こして我分
ゝ恵歌のあるう
ゝ
ゝ
ゝ

太郎こゝにいきつかうし
太をいうるまゝすこしきうし
ものいうるく
うき舟のゐど
いりきてあつかうねうち
伊勢じ
かりいるみちうしんと
伊勢うんを浦舟のそこ
あ
うしんまをとうも
伊勢浦ほあしうるまを取ちど
むごまつうち
河内国朝
和歌浦もうくいるゝ
物ちうげまびらうをうして
元ちけ者じ
浦舟じうを地けてゐんけ者ものへ
これいやくと知てのすじ

あやまりをうんつを
分をすこしすをとうをもど
あらしゐをちいて
白文の鈴じおよ浦舟と二人ものうをうさ多
よわり
人ちとをとうを
白文へわいをちしすを中をうけく
ゐのちなちねて
蓋のすをとねくまちゐ
蓋のすじ舟のゐど
うさねよいるすへも
うきのちまねくをうれしはりしをと
分をすいるすへよあんすれも
うをうて人をうをうきねまいるれう
ゐのさくへうく
死ねの花ゐるしうすと
ほうをけきをいうをいをもるさ氣ようさ花ちうしをとをちへ

花の姿はいとさとしかねてさうもうさ
はなをかの下にたちぬるとしてそのいりれとをきうけうり
そのいりれとをきうけうり
はるのこにくやうなりもの
常陸の国ほ丹の一服の中をとし
文のうへをとりいて　中元のすし
人をうけられぬいでゆくべさ
ほ丹のかうをんをうこと
ふらもあしくうるうこれまうり
やうれ不へたりてものとりうこ
あけくれいかのうをと
あけくれいかせこのかりり
私不及引文
元しのあゆをうもうをうきうを
死ぬるもしひもれうをうこう
河歩と近死地　人命亦如是　注文

唐一所羊歩のすし唐士ま羊を牧並て食時すのそ
うて唐不へあいぐくりて殺すし歩ま羊て
死地ましつくを常はれ喻
文いいうをうもと
白文ぐりのいねこ
いまうをうへやうんと
ほ丹のんし
うををあうをうき世ゆすまうをうこと
入水のいわり
うき世をうを先ねうすいつこと
しんうとや
私ふうをの八雲の山をありれ文人同号れ
ますをををへしうれうをもうき世をうこと
うををいうををうもうをうこ山をまれ山をあるたく
ぐをうをうを三ますし物をと
不及引文

かれ及もいまいの事しさ
蓮心
いつる家まんとしれもおかけるて
人まつれて引をとうんの名事ろし
ねのう東の家まんのいむとりふまん
何解夢書曰夢見病人死必死
秘はのまみしうり 実
愛まほ弄のまをて京う母のみ知せてう
実おとろきてやうて又をとそまるとりふん
ここくえをもふ人のかゆう
秘蓮れ方ちのまを
蓮のかへつくまし字をけ書うかう
まなやまきれいうまんと母れふふん
かねのうれ
ほ弄の味者陰う女産ねう多

いうくいうれ行りて
母のとろうたちを常陰う制しりふと
うのうくさる
宇佐のうをれ阿国衆の寺ん
うれきうの物
頭巾の解
又をとうき巻へて
秘頭巾の又をて　私うてそのうへ又をくへうん
うくうりとふふいのち
ほ弄のうれ母れんをうくくふへしあられ
のうまま又ういうんまをとりいうんこれ世の家まうまをして
秘をしれ八きまうし果生を紀そうとをりていさい
うくり見えしうう
実八やうて對面ある（げきいあれ家をん
をといさかうう哀い果生をまて行まうこれ八世の家
うまいりうふをふいさかうう（秘世ふの世れ
もりうん

ぞ[illegible]れのよれるまつさて
[illegible]
をさるの頌 [illegible]の頌
[illegible]のとれ[illegible]
[illegible]
秘 [illegible] 義[illegible]て何と[illegible]
[illegible]
頌 [illegible]
[illegible]
頌 [illegible]
[illegible]
[illegible]
[

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]